

女性の声を 地域安定化の中心に

チャド湖流域とリプタコ・グルマ地域で
安定化への取り組みの先頭に立つ女性たちのストーリー



Copyright ©2024 United Nations Development Programme

UNDP は貧困や格差、気候変動といった不正に終止符を打つためにたたかう国連の主要機関です。170 か国において、人間と地球のために総合的かつ恒久的な解決策を構築すべく、様々な専門家や連携機関からなる幅広いネットワークを通じ支援を行っています。

United Nations Development Programme
Sub-Regional Hub for West and Central Africa
Point E, Complexe Citamil, Immeuble E
Dakar – Senegal

目次

04

はじめに

06

エグゼクティブ・
サマリー

08

チャド湖流域
および
リプタコ・グルマ
地域安定化
ファシリティ

14

地域安定化への
取り組みの
先頭に立つ
女性たちの
ストーリー

16

ハウア・サハ
イルンさん
ミッテリン
地域安定化
委員会議長

20

ヤバライ・
バヌさん
バンジアガラ
の家庭内暴力
被害者

24

ヌンビシ・
アルビンさん
マルア司法
警察巡查部長

28

シティー・
シセさん
セイテンガ女性
団体コミュニティ・
コーディネーター補
(ブルキナファソ)

30

雇用創出・現金報
酬プログラムとは：
危機下での自立、
尊厳、希望の回復

32

ブランセス*
さん
性暴力被害者の
若年女性

34

スルタン・
ババ・イブラ
ヒムさん
マン女性
レイマ
連合議長
(ギテ、チャド)

36

アスマハン・
アラワイ
シェーさん
UNDP
ナイジェリア
事務所主任
テクニカル・
オフィサー

40

ハウア・ムサ・
シセさん
UNDP
地域安定化
ファシリティ
駐セイテンガ
技師

42

サリマタ・
タラタさん
セイテンガ
産科病院助産師
(ブルキナファソ)

44

ラマトゥ・
アリさん
ガランドゴ診療所
看護師
(ニジェール)

46

ガンド・
ヤイグレ・
テンベリーさん
マリ CAFO
事務局長

48

マルグリット
さん
カメルーン
極北州モゾゴ
の仕立職人

52

ヤガナ・イブ
ラヒムさん
バンキ地域
安定化委員会
メンバー

58

ハジア・ハウア・
マイナ・マドゥ
さん
ボツの農牧民
兼起業家
(ニジェール)

62

ハワ・アウさん
リプタコ・
グルマ地域
統合開発機関
事務局長

64

ウラ・アンドレン
さん
在エチオピア・
スウェーデン大使
館 SIDA 地域開発
協力責任者

66

結語：ブレルタ・
セラさん
地域安定化
ファシリティ・
ダイレクター

はじめに

紛争と危機のさなかに、そして不安の影が付きまとう中で、人間のレジリエンス（強靱性）を示すストーリーは、エンパワーメントの源となり、前進への道を照らし出します。本書で取りまとめた素晴らしい女性たちの道のりは、最も手ごわい挑戦に直面する今も、サヘルの人々の精神に根を張った揺るぎない力と強さを証明しています。

混乱が暗い影を落とすチャド湖流域とリプタコ・グルマ地域の中心に、まるで希望の光のように浮かび上がった地域安定化ファシリティ（RSF）は、暴力や避難の影響をまともに受けた人々に、支援の手を差し伸べています。治安や司法の改善、社会的一体性の促進を目指す取り組みを通じ、RSFは変革の触媒役として、かつては絶望に打ちひしがれたコミュニティに希望の光をもたらしています。

女性と少女は、RSFの目標達成に向けた前進に欠かせない役割を演じていますが、彼女たちの果たすかけがえのない貢献はまだほとんど認識されていません。このストーリー集では、女性たちの決意を示す顕著で感動的な事例を明らかにし、それぞれの女性が地域社会をどのように変えているのかを具体的に提示します。

私はサヘル地域の各国を訪問するたびに、今も続く危機に決意をもち、リーダーシップを発揮し、革新的なアイデアで取り組んでいる強靱な女性たちにお会いしています。中でも、紛争がチャド湖流域とリプタコ・グルマ地域におけるジェンダーの力学に影響を及ぼした結果、大多数が独身で安定した収入もない女性たちが、大家族を養う責任を背負っているということは、衝撃的な事実です。このような状況で、女性のエンパワーメントが欠かせないことは明らかです。それぞれのコミュニティにおける平和と安定にまつわる議論では、女性が重要なステークホルダーとなるからです。

私は、協調的な取り組みでこうした障壁を乗り越え、女性がサヘルの未来を決めるうえで、さらに目に見える大きな役割を担えるよう、そのエンパワーメントを図れると固く信じています。私たちが結束すれば、制度的不平等に対処するとともに、ジェンダー平等を促進し、女性の権利を支える政策やイニシアティブの実施を確保できるのです。私たちが安定化

プログラムを策定したことで、紛争で引き裂かれた地域で100万人を超える女性が、司法や治安当局、学校、市場、保健医療施設に直接アクセスできるようになったほか、経済的な機会も広がりました。

こうした取り組みの中心となるのが、政治・社会制度における女性の包摂と尊重の促進です。女性の積極的な関与につながる環境を整備するには、女性の声や貢献を認識、評価しなければなりません。私たちはそのストーリーを詳しく紹介することで、この素晴らしい女性の各個人が日常的に取り組んでいる重要な活動に焦点を当てます。

例えば、ハウア・サハイルンさんの物語は、集団的な行動とコミュニティのレジリエンスに変革をもたらす力があることをよく表しています。チャドのギテ安定化委員会で議長を務める彼女は、粘り強い精神を体現し、自らのコミュニティをより明るい未来へと導いています。サハイルンさんと仲間の女性たちは、RSFの施策を通じ、自己決定権を取り戻し、紛争の残骸の中で自分たちの運命を作ってゆくことで、経済的エンパワーメントへと至る道を見出しました。

ヤラバイ・バヌさんのストーリーも同様に、不屈の精神で生き抜き、再生を果たす女性の姿を映し出しています。家庭内暴力と社会からの拒絶という奈落の底から這い上がった彼女はヤム・ギリボロ・ツモのような団体が提供する避難所に癒しと支援を見出しました。バヌさんはエンパワーメントへの取り組みを通じ、新たな力と生きる目的を見出し、これが経済的な自立と自決への道につながりました。

これは、本書で多くご紹介する勇気と決意の物語のうちの2つにすぎません。それぞれのストーリーが、最も厳しい状況の中でさえ、1人ひとりの内には変革を遂げる能力が備わっていることを思い起こさせてくれます。これらのストーリーはまた、コミュニティ主導型のイニシアティブと国際協力には、持続可能な平和と開発を育む力があることも明らかにしています。長引く紛争や人道危機により生じた複合的な問題に取り組む中で、私たちもこうしたストー

リーから元気をもらおうではありませんか。そして、最も暗い時代であっても、サヘルの人々が不屈の精神を持ち続けていること、そして、1つひとつ力強いステップを踏みながら、立ち上がり、再建を果たす態勢が整っていることを認識しようではありませんか。

2023年7月の第4回チャド湖知事フォーラムでは、多くの参加者がジェンダー不平等を永続化させる有害な固定観念に対抗して立ち上がり、行動を起こすことを約束しました。政治指導者とコミュニティ・リーダーが結束した時に生まれる力を示す感動的な事例だと言えます。

女性が直面する制度的な障害に集団的な取り組みを行う中で、UNDPとそのパートナーは、女性の声と優先課題をあらゆるプログラムに引き続き統合することを約束しています。市民と国家の間の社会契約を回復できるかどうかは、安定化への取り組みのあらゆる側面で、リーダーとしての女性のエンパワーメント如何にかかっているからです。

安定化に向けた私たちの取り組みを牽引する女性たちの目覚ましいジャーニーのいくつかをお楽しみいただければ幸いです。それぞれのストーリーが、恒久的な変革をもたらす成果の達成に欠かせない、貴重な洞察と視点を提供してくれます。包摂とエンパワーメントを求める女性たちの声と一緒に耳を傾け、サヘルにおける平和と繁栄を目指す私たちの共同の取り組みを先頭に立って進める女性たちの重要な役割を確認しようではありませんか。

ご挨拶に代えて、



Ahunna Eziaakonwa

アフナ・エザコンワ
国連事務次長補
UNDP 総裁補兼アフリカ局長



エグゼクティブ・ サマリー

和平プロセスの成功と持続を確保するうえで、女性とその声が貴重な役割を果たすことは全世界で実証されています。女性がその家族やコミュニティの安全や尊厳、ウェルビーイングを求めて闘うことで、長引く紛争に変化をもたらすことも多くあります。こうした取り組みを支援するには、平等な教育機会、持続可能な経済成長と社会開発、ガバナンスや政策決定への包摂的参加、そして政治と公的セクターとリーダーシップを発揮する機会への平等な参加を十分に尊重する必要があります。女性を対象とした運動は、女性の保護や権利と人権の実現要求の先頭に立つことで、人道援助を可能にし、対話や交渉、平和構築への取り組みを主導しています。

女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議第1325号をはじめとする女性と平和、安全に関する国連安全保障理事会決議は、和平交渉にジェンダーの観点を含めることの重要性を確認しています。ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントが、平和と安全に欠かせないとすれば、サヘル地域の女性を紛争防止と紛争終結後の平和構築の主役と捉え、和平と安定化プロセスの全段階に意味のある形で参画させねばなりません。実効的な司法と説明責任のメカニズムで、サヘルの女性と少女を戦争や暴力からも守らねばなりません。

チャド湖流域およびリプタコ・グルマ地域安定化ファシリティはこれまで、極めて大きな障壁があるにもかかわらず、女性がコミュニティの安定化委員会に参加したり、主導したり、破壊されたインフラ（家屋、学校、警察署、診療所、給水所、市場の露店など）を再建する技師として働いたり、コミュニティの安全を確保したり、暴力と紛争によって荒廃したコミュニティや地域の再建に関連する政策決定プロセスに積極的に参画したりしている明確なエビデンスを見届けてきました。

ブルキナファソ、カメルーン、チャド、マリ、ニジェール、ナイジェリアにまたがる困難な状況下で、地域安定化ファシリティは各国政府や地方自治体、地域密着型組織、女性と若者の団体、さらにはチャド湖流域委員会やリプタコ・グルマ機関などの地域機関とも密接に連携しています。これらのパートナーシップは、現地での目に見える成果を促進し、男女や大人、子どもを問わず、あらゆる人にプラスの影響を及ぼすことをねらいとしています。

地域安定化ファシリティは 100 万人を超える女性と少女に、水や学校、医療センター、市場への不可欠なアクセスを提供してきました。危機に見舞われた地域で安心と安全を感じられる女性の数は、過去 3 年間でほぼ 3 倍に増えています。

しかし、ファシリティの成果を数字や報告だけで測ることはできません。それぞれの成果の裏には、1 人ひとりの女性の顔と暮らし、そして独自のストーリーが隠れています。それはしばしば、極度の暴力を受けた経験の特

徴としながらも、希望や勇気、レジリエンスを反映するストーリーでもあります。こうした女性たちの経験は、大きな障害にもかかわらず、その家族や国、そして世界にとってさらに安全な未来に向けて、自らの暮らしと仕事を再建できるだけの目を見張る力が女性にあることを示しています。

2024 年 3 月 8 日の国際女性デーを迎えるにあたり、本書の各ページには、国連開発計画（UNDP）の地域安定化プログラムに参画したり、その影響を受けたりした女性たちの感動的なストーリーがちりばめられています。これらのストーリーはいずれも、女性と少女にとってよりよい地域、すなわち平等とエンパワーメントが得られる地域へと、私たちとパートナーが前進する姿を映し出すものでもあります。女性が参加し、リーダーとなれるコミュニティは豊かであり、そこでは持続可能な平和と安定が現実のものとして感じられるからです。

私たちはこれらのストーリーや、その他多くの語られることのないストーリーには、豊かで平和な地域を目指し、サヘルの女性たちが今、次世代がより安全、安心な生活を送るための道筋づくりをしていることを印象づける役割があると期待しています。そのためには、現時点でのあらゆる和平と安定化に向けた取り組みの中心に、女性がいることが条件となります。

サヘルの女性は私たちの取り組みの原動力です。安定化に向けた解決策の顔でもあります。そして、私たちが平和で豊かなサヘルを期待できる理由でもあるのです。

[こちらをクリック](#)

地域安定化ファシリティに関する UNDP ジェンダー・ガイダンス

チャド湖流域および リプタコ・グルマ地域安定化 ファシリティ

地域安定化ファシリティ（RSF）は、国際的なパートナーと地方・地域・国レベルのパートナーの支援を受けた国連開発計画（UNDP）の資金調達メカニズムです。

2019年にチャド湖流域、2021年にリプタコ・グルマ地域でそれぞれ発足したRSFは、暴力のリスクを低下させ、中長期的な平和構築、復興および開発のプログラムを実施するための政府とコミュニティの取り組みを支援することを目的に、紛争影響地域への介入を行います。

実施済みの主な活動の重点領域：



治安と
司法の
改善



必須の
社会サービスの
ための
インフラ整備



生計手段の
創出



平和と
社会的一体性の
促進



クロスボーダー
協力の強化

カメルーン、チャド、ニジェール、ナイジェリアの4か国にまたがるチャド湖流域地域では、2009年から危機が続いており、国内避難民の数は

360万人

に上ります。治安の悪化によって、生計手段や基本的サービスへのアクセスが妨げられています。

14年続いた暴力により、保護と人道援助を必要とする人々は

1,100万人

を超えています。コミュニティは気候変動の影響も受けており、雨季にはこれまで見られなかった洪水が発生し、作物や財産に被害が生じています。

ブルキナファソ、マリ、ニジェールの3か国にまたがるリプタコ・グルマ地域は長引く紛争、気候変動の悪影響、国家機関の弱体化や不在により、複合的かつ多次元的な危機に見舞われています。そして、3か国すべての政情不安が、これに追い討ちをかけています。2023年8月現在、サヘル中部の危機で260万人を超える国内避難民が発生しています。

現在までに、RSFの資金供与はチャド湖流域、リプタコ・グルマ両地域の



160万人

以上に裨益しています。私たちの活動は多くの女性と少女の暮らしにも直接的なインパクトを及ぼしました。

インパクトの具体例：

チャド湖流域とリプタコ・グルマ地域全体で61か所に上る紛争影響地で、約**110万人**の女性が学校や医療センター、市場、きれいな水などのサービスを受けています。第三者機関の評価によると、女子学生の就学率と定着率は、これまでになく高くなっています。



就学率、特に女子の就学者数に大きな変化がありました

バルア（ニジェール）の校長



当校の生徒数は368人で、女子は212人です。教室は10室ありますが、永久的に使用できる建材で造られたものは2室だけで、残りは半分が防水シートで覆われた木陰にあり、そこには幼稚園と特殊教育センターが付属しています

ガランドゴ（ニジェール）の校長（チャド湖流域地域安定化ファシリティ 2024年中間レビュー）



当院の産科病棟は電力負荷制限のため、定期的に停電に見舞われます。夜勤の条件は極めて厳しく、特に分娩中の女性は暑さで窒息することもありました。太陽光発電設備の導入で、今では扇風機と照明が常時使えるようになったほか、病院自体のエネルギー効率も上がりました。**1日24時間、電力が確保できたことで、これまでとは違い、継続的な妊婦管理が確保できるようになっています**

セイテンガ産科病院（ブルキナファソ）助産師のサリマタ・タラタさん
リプタコ・グルマ年次報告 2022



コミュニティ意識調査によると、チャド湖流域地域のプログラム拠点で暮らす女性 **63 万人**以上が現在、安全と安心を感じています（2020 年の時点で安全と安心を感じていた女性はわずか 28 万人）。



コミュニティにソーラー街路灯が設置されたことで、人々が晩や夜間でも経済・社会活動を行えるようになりました。**この街路灯は女性にとってさらに大きな利益となりました。**女性の安全と安心が高まったことで、暗くなってからも気楽に、心配なく外出できるようになったからです

フォトコル市長(チャド湖流域地域安定化ファシリティ 2024 年中間レビュー)



女性は、チャド湖流域とリプタコ・グルマ地域の安定化拠点で設立されたか、支援を受けているコミュニティ安定化委員会メンバーの **20%** を占めます。この安定化委員会は、安定化活動の実施と、平和や寛容、社会的一体性の促進に欠かせない役割を果たしています。



委員会ができるまでは、私たちは女性に影響する問題について発言することができませんでした。軍や治安部隊に関連する問題を指摘することも不可能でした。私たちは軍や治安部隊を信用できず、声を上げたらどうなるか、不安だったからです。私たちは何年も、こうした課題について口を閉ざしたまま暮らしていました。**今では自信をもって声を上げ、自分たちの懸念や課題について報告したり、私たちが正義を実現するのに十分な解決策を見つけるよう、委員に要求したりしています**

バンキ (ナイジェリア) の安定化委員会メンバー、ヤガナ・イブラヒムさん



チャド湖流域、リプタコ・グルマの両地域で、女性 **4万4,000** 人が雇用創出・現金報酬、短期研修および生産的商業資産に対する助成金という形で、生計プログラムからの恩恵を受けています。

市場では、雇用機会と商品の供給が増大してきています。**雇用創出活動に参画し、そこから恩恵を受ける女性も増える一方で、基本的な生活必需品の販売をする若者もいます。生計は回復され、私たちの収入は増え、希望に満ちた中で人々は再び生きることになりました。**また、子どもを学校に通わせる女性が増えたほか、寡婦には家族の面倒を見るための支援が提供されています

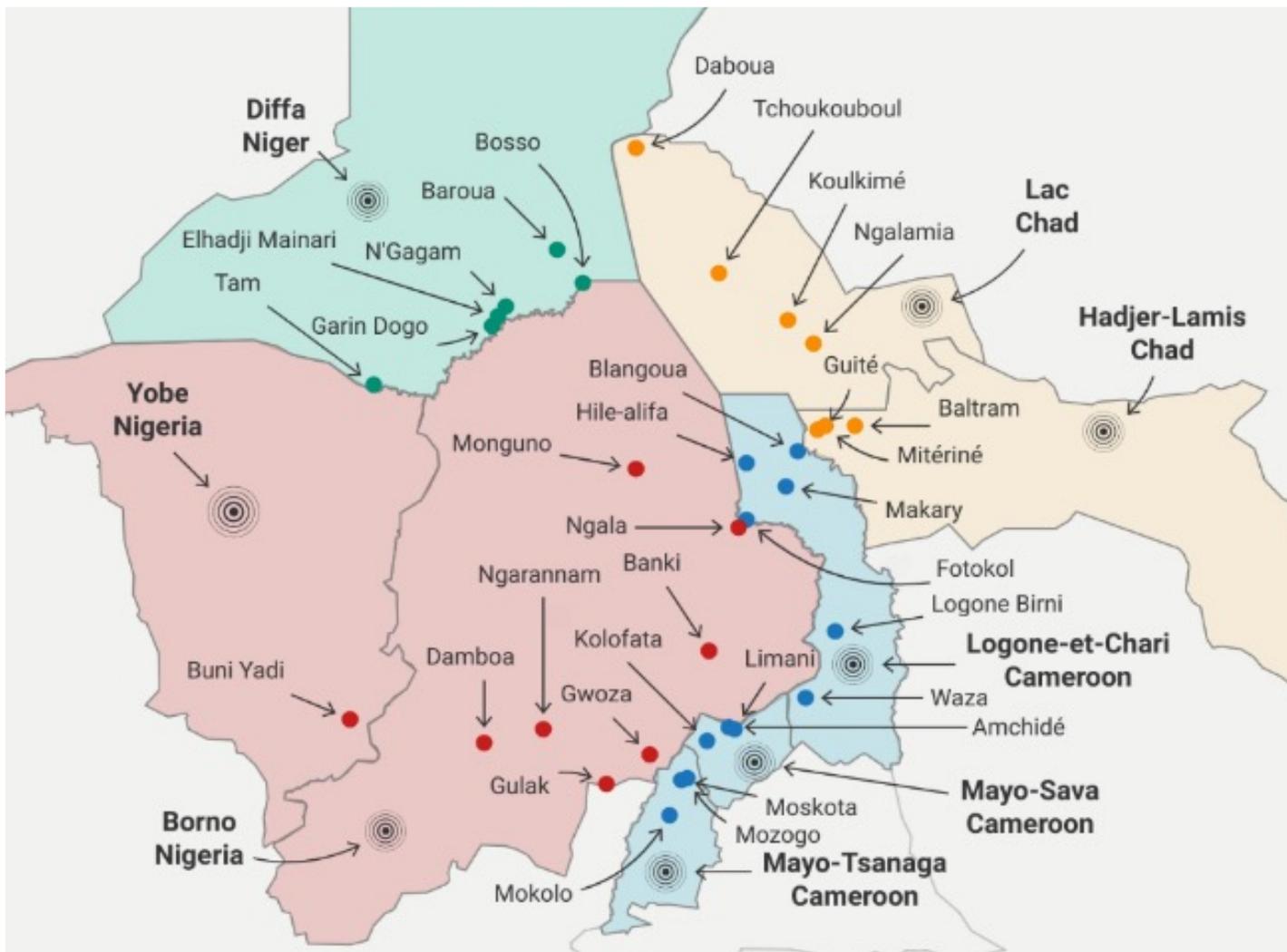
クルキムとギテ（チャド）の女性、男性および若者（チャド湖地域安定化ファシリティ 2024 年中間レビュー）

両地域のプログラムではいずれも、現地の人権・司法関係者を巻き込み、説明責任の充実した司法制度の基盤を築こうとしています。人権とジェンダーに基づく暴力防止に関する研修プログラムを通じ、**5,248** 人の治安部隊メンバー（うち 500 人程度は女性）がこの取り組みの対象となっています。

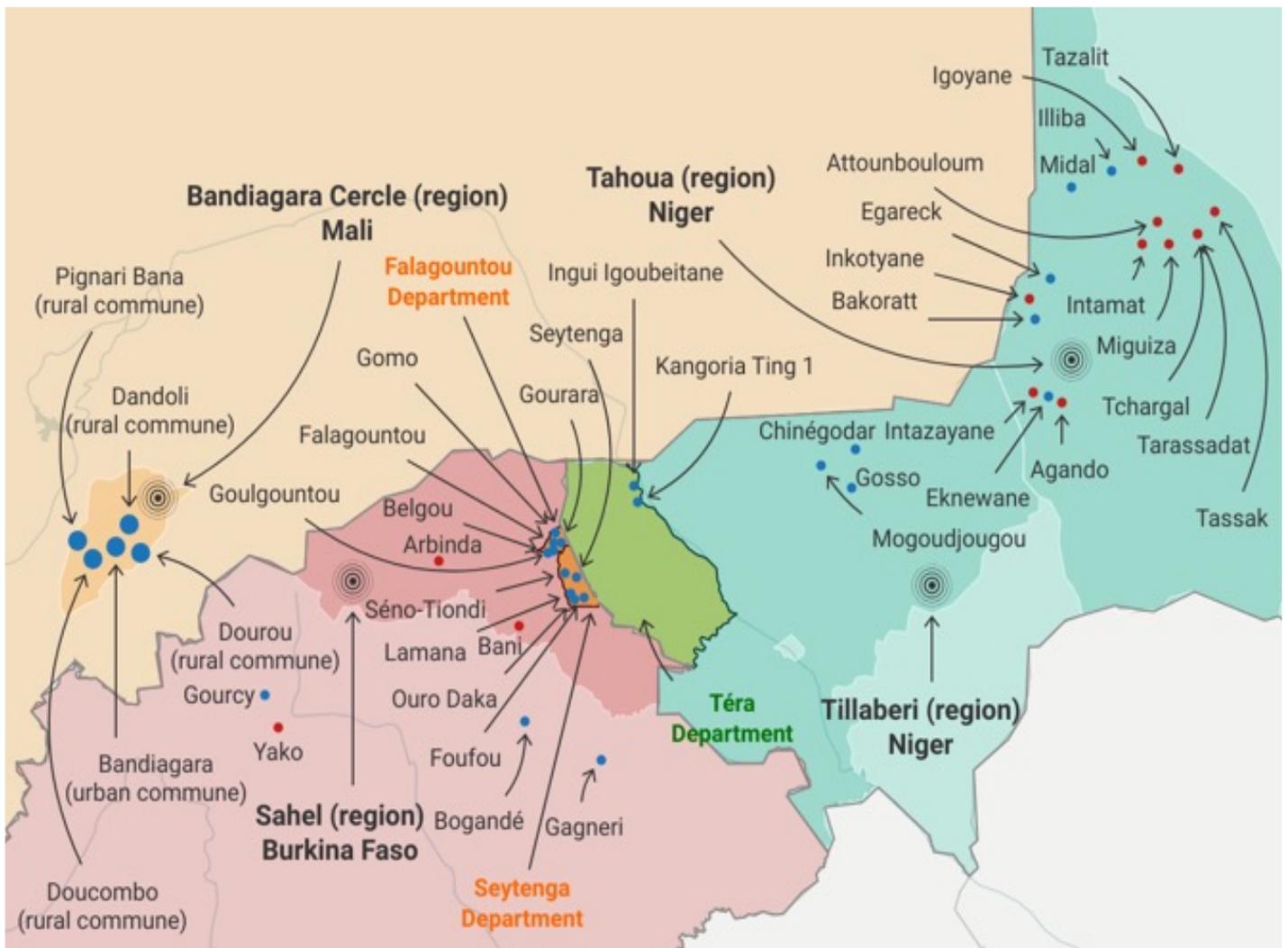
人権はますます尊重され、**女兒が学校に通うようになりました。**かつて、人々は女性と女兒に対して当たり前のように暴力を加え、しかもこの恐ろしい悪行は、広く受け入れられていました。私たちが情報提供を受けたことで、この意識は変わりました。**人権と女性の権利が尊重されるようになるにつれて、ジェンダーに基づく暴力事件は大幅に減少したのです**

チャドのマニ行政当局（チャド湖流域地域安定化ファシリティ 2024 年中間レビュー）

チャド湖流域と リプタコ・グルマ地域における 安定化施策実施拠点の分布

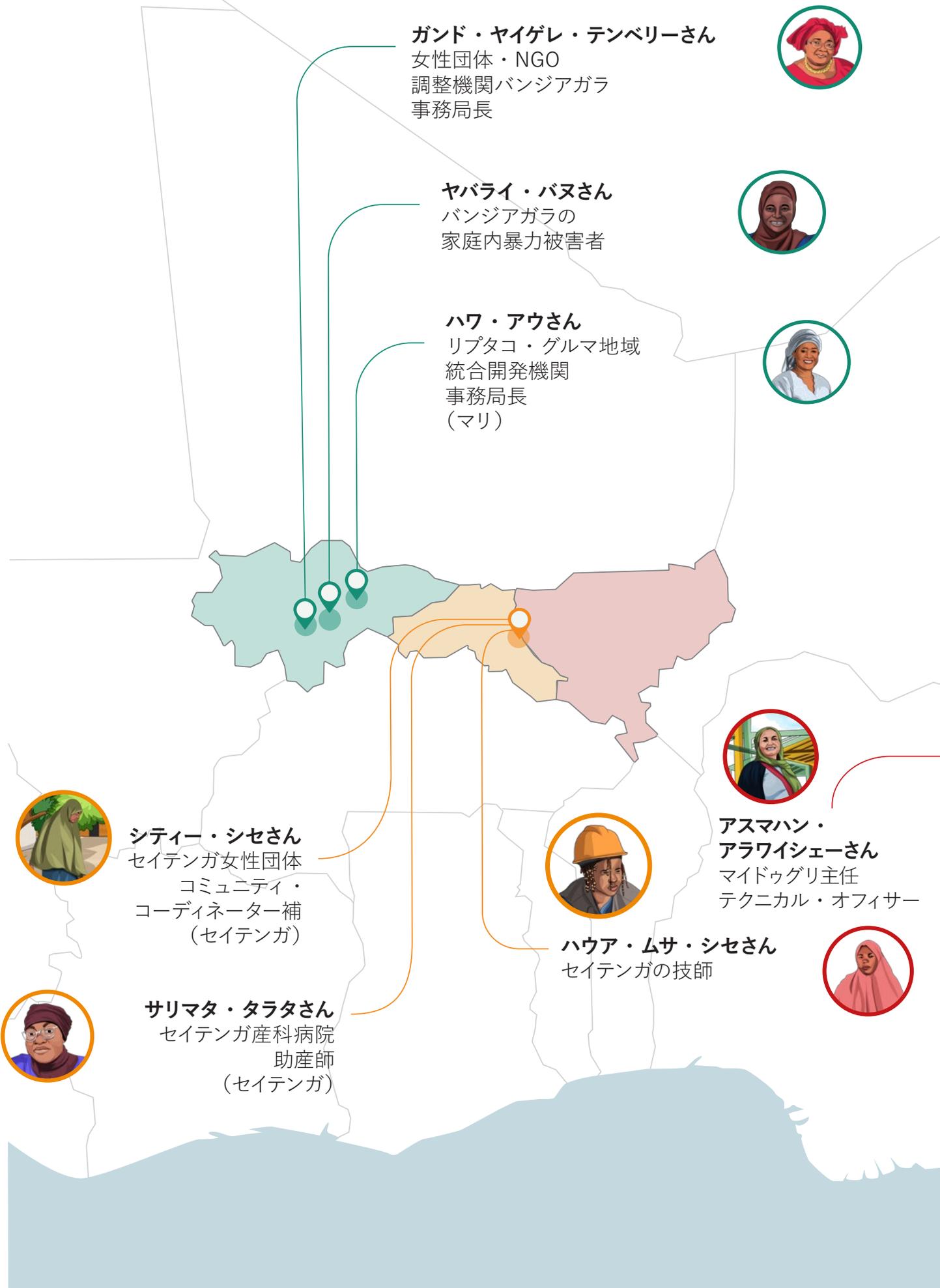


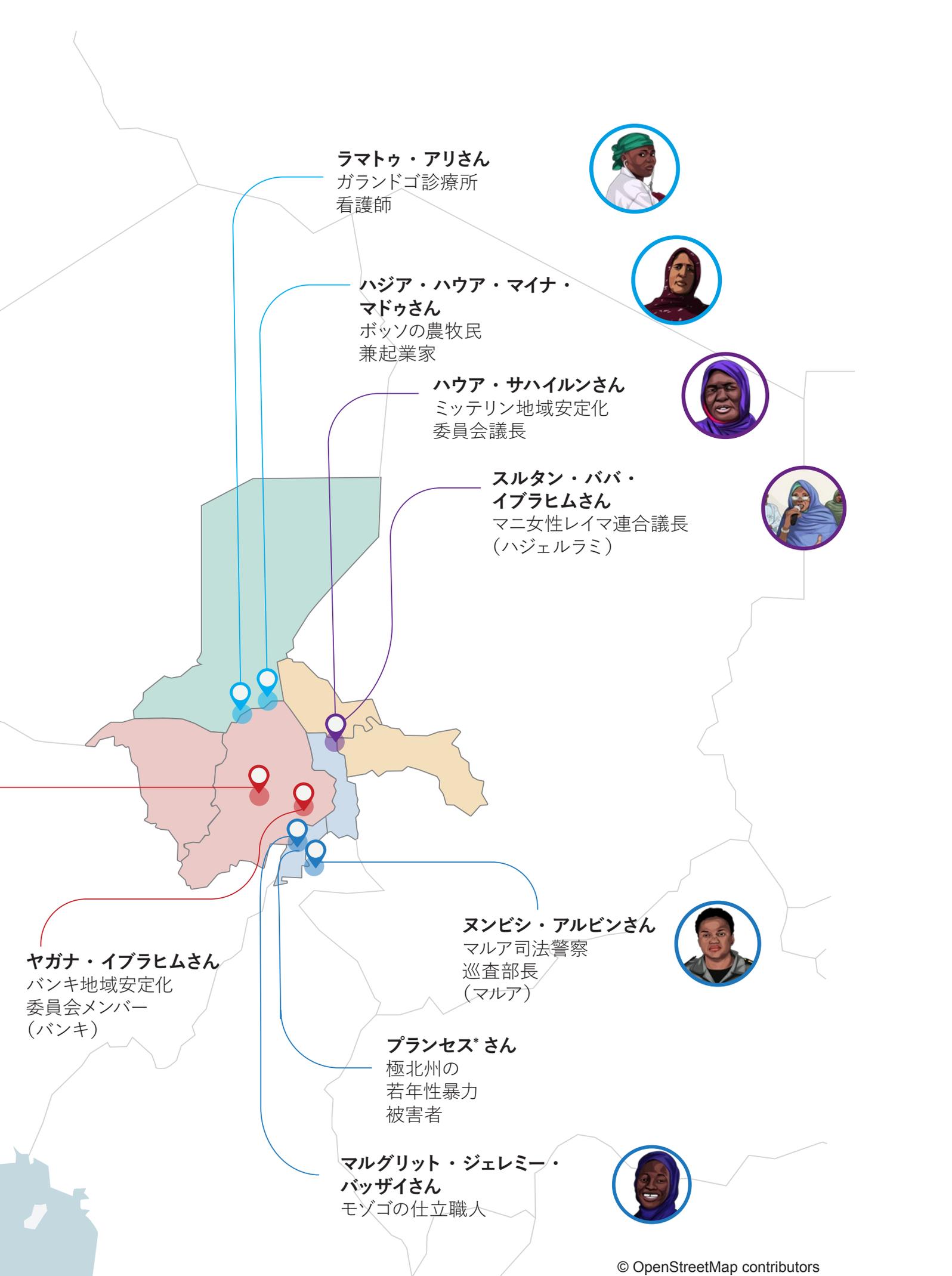
チャド湖流域



リプタコ・グルマ

安定化への取り組みの先頭に立つ女性たちのストーリー





ラマトゥ・アリさん
 ガランドゴ診療所
 看護師



ハジア・ハウア・マイナ・マドゥさん
 ボツの農牧民
 兼起業家



ハウア・サハイルンさん
 ミッテリン地域安定化
 委員会議長



スルタン・ババ・イブラヒムさん
 マニ女性レイマ連合議長
 (ハジェルラミ)



ヌンビシ・アルビンさん
 マルア司法警察
 巡査部長
 (マルア)



プランセス*さん
 極北州の
 若年性暴力
 被害者

マルグリット・ジェレミー・バツザイさん
 モゾゴの仕立職人



ヤガナ・イブラヒムさん
 バンキ地域安定化
 委員会メンバー
 (バンキ)

© OpenStreetMap contributors

ハウア・サハイルンさん

ミッテリン地域安定化委員会議長

地域安定化ファシリティは、ミッテリンの人々、特に若者と女性の暮らしを多くの点で変えました。このプログラムのおかげで、私たちは社会としてよりよくまとまり、経済的、社会的な意味で共通の利害を育てられるようになりました。

かつて私たちは、社会的な衝突によって惨めさを感じていました。しかし、人権や民軍能力について研修を受けたおかげで、私たちは安心して共存してゆくことを学びました。そして、今までとは違う未来が見えてきました。

恒久的な平和を期待できるようになったほか、漁業や農業のような日常的活動が改善してゆく姿も目の当たりにしているからです。女性は安定化ファシリティのプログラムを通じ、雇用創出・現金報酬プログラムのような活動で利益を得ています。それによって私たちは、鮮魚や燻製魚、干し魚の取引や、ンジャメナの週市での商品販売、さらには農畜産業によって、地域経済を再活性化できるようになりました。その結果、女性も自分たちの自己決定権を取り戻しつつあります。



しかも、社会的一体性に関する研修ワークショップのおかげで、子どもたちと平和の重要性について、自信をもって話せるようになりました。夫との関係も改善したことに気づく女性も多くいます。

私としては、今後3年から5年で、子どもたちがあらゆるレベルの学校で学べるようになることを期待しています。識字率を高め、80%以上とする必要もあります。自分たちの名前を書いたり、行政機構に参加したり、さらには処方箋を読んだりするためにも欠かせないからです。残念ながら今のところ、現在私たちのコミュニティに中等学校はなく、子どもたちの学習意欲も低くなっています。私たちのためにも、コミュニティのためにも、この状況が変わることを期待しています。



雇用創出・現金報酬プログラムの活動により、姉妹のうちのひとりがお金を貯め、母を病院に連れて行ってくれました。もうひとりの姉妹は学費の支払いや医療へのアクセスなど、子育てのニーズを満たせるようになっていきます



ハウア・サハイルン



チャド、ハジェルラミ州ギテ



ギテ共同行動計画
地域安定化委員会議長



インフォーマルな
宗教教育



58歳





ヤバライ・ バナヌさん

バンジアガラの家内暴力被害者

13歳の時、祖母が亡くなると、私は結婚を強制されました。祖母はいつも私の面倒を見てくれていました。結婚後、すぐに長男を妊娠しました。まだ幼い妻だった私が、もう母親になろうとしていたのです。

夫はカイ州で零細採掘業に従事していました。アルコール依存症で毎日、私を殴っただけでなく、しばしば殺すと脅しました。

毎日の暴力に加え、侮辱したり、怒鳴ったりするなど、精神的な暴力もありました。資金もすべて奪われただけでなく、勉強を続けることも禁じられました。

夫の家で過ごした17年の間、私は2人の子どもを養うために、いろいろな仕事を転々しました。そしてある日、酔っぱらって帰ってきては私を殴ったり、首を絞めたりする夫から受ける苦痛に耐えられなくなれました。その時、私の人生は変わりました。私は夫のもとを離れ、2人の子どもを連れてバンジアガラの实家に戻る決心をしました。

残念ながら、期待していた支援は得られませんでした。家族は私を拒んだからです。それどころか、家族にとっての恥だと言われ、追い出されたのです。



私は絶望し、行き場を失いましたが、ありがたいことに、ジェンダーに基づく暴力の女性被害者を受け入れる保護施設をバンジアガラに見つけました。ヤム・ギリボロ・ツモが運営するこの施設に、私と子どもは温かく迎えられました。そこで過ごした3か月の間、私は精神的なサポートを受け、食品加工の訓練を受ける女性グループに加わりました。

私は10人の女性と一緒に、乾燥タマネギの加工に必要な機材と訓練を受けました。このことが、経済的に自立し、自分と子どもたちを養えるようになるきっかけとなりました。そして今では、気持ちも随分と楽になっています。

必要な支援を得て、
ピーナツペーストの
加工場を開くことと、
農業食品を
取り扱う大きな店を
持つこと。
それが今の私の
夢です



ヤバライ・
バヌ



マリ、モプティ州
バンジアガラ



基礎教育を修了し、職業訓練校に入学



31歳

西アフリカと 中央アフリカの ジェンダーに基づく 暴力の現状

ジェンダーに基づく暴力は、至る所で見られる人権侵害です。紛争と不安が重なる時期には、ジェンダーに基づく暴力も増加する傾向にあるため、西アフリカと中央アフリカでは、人間開発の大きな足かせとなっています。その影響は被害者自身よりもはるかに広く、家族やコミュニティ全体に及び、心理的、社会的、経済的に大きな重圧となっています。ジェンダーに基づく暴力は、男性も女性も受ける可能性があるとはいえ、女性はその不当に大きな影響を被っています。

ジェンダーに基づく暴力にはフェミサイド、親密なパートナーによる暴力、性暴力、児童婚、女性器切除など、さまざまな形があります。UNFPAの「ジェンダーに基づく暴力の責任領域」によると、西アフリカと中央アフリカでは約

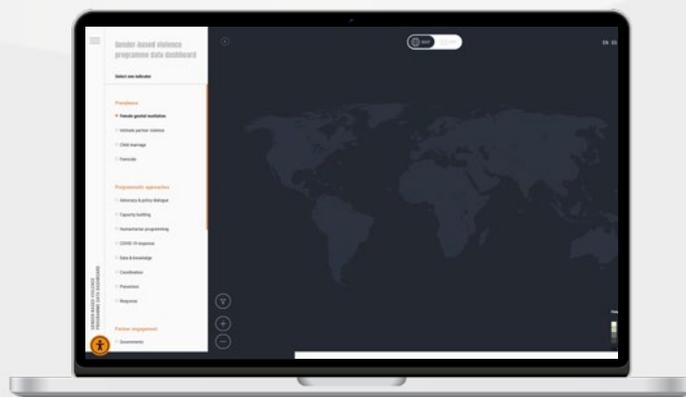
570万人

がジェンダーに基づく暴力を理由に、何らかの援助を必要としています。

ジェンダーに基づく暴力は、深く根付いた社会文化的規範、信じてもらえないことへの不安やスティグマ、恥の意識、罪悪感、屈辱感、さらには当局や実行犯からの報復への恐怖など、多くの要因から告発されないことが頻繁にあります。

この重大問題に対処するためには、包括的なデータと協調的な対応メカニズムが欠かせません。

[UNFPA ジェンダーに基づく暴力プログラムのデータ・ダッシュボード](#)をはじめとする資料は、価値ある洞察を提供するだけでなく、域内全体でジェンダーに基づく暴力と闘い、被害者に支援を提供するための重点的な施策の策定にも役立ちます。



女性能力 強化協会

マリにおける女性の エンパワーメントと ジェンダーに基づく 暴力対策

ドゴン地域で活動する女性能力強化協会 (YA-G-TU) は、コミュニティの社会経済開発の前進を目指し、活発な活動を展開するマリの市民社会組織です。

この組織は、複数の部門にまたがる多様な促進活動を通じ、女性の貢献度を高めるための戦略を積極的に実施しています。ジェンダーに基づく暴力対策にも揺るぎない決意を持って取り組む YA-G-TU はクリコロ、モプティ、セゲー、トンブクトゥを含む各州で、インパクトの強いプロジェクトやプログラムの管理を行っています。主な取り組みとしては、貯蓄と貸付、健康、栄養、農業、アドボカシー、女性の権利と市民権の推進に関するものが挙げられます。

YA-G-TU は、そのミッションに加わり、女性のエンパワーメント強化、地域開発の促進、より包摂的なコミュニティの構築を支援する人々を募集しています。さらに詳しい情報については、yagtu.org をご覧ください。

ヌンビシ・ アルビンさん

マルア司法警察巡査部長

私は4年前から、カメルーン極北州の司法警察に勤務しています。私はモコロ市のジェンダーに基づく暴力対策に関する警察側フォーカル・ポイントを務めていますが、私が担当しているマヨ・ツァナガ県は、チャド湖流域の武力紛争で大きな被害を受けた地域です。私は極北州の「ジェンダーに基づく暴力事件管理グループ」にも所属し、ソーシャルワーカーや国連機関、NGO、市民社会組織、弁護士、コミュニティ指導者などのステークホルダーと連携しています。

紛争危機下で、ジェンダーに基づく暴力事件は急増し、特に祝祭の時期には、1か月で9件以上の事件が発生しています。こうした事件を捜査し、被害者に加え、時には実行犯の司法制度へのアクセスも支援しながら、警察官として平和と秩序を確保することが、私の任務です。

私たちは被害者本人とその家族のほか、社会問題委員会や人権団体、市民社会団体などの機関からも苦情を受け付けています。私の役割は、受け取った苦情について捜査を主導し、必要な情報を集め、事件を裁判所に付託し、被害者が必要とする不可欠な支援を受けられるようにすることにあります。

私が担当した事件の中で、特にインパクトが大きかった事件が2つあります。1つは、9

歳の女の子が金銭目的で父親に結婚を強いられた事件。もうひとつは、精神障害を抱える女の子が近所の若い男性に繰り返しレイプを受け、妊娠させられた事件です。私は2人の少女を特別社会事業とNGOに紹介し、不可欠な心理社会的支援を受けられるようにしました。また、容疑者については徹底的な捜査を行い、起訴（と収監の可能性）を前提として事件を裁判所に付託しました。この手続きは、カメルーンの刑法と刑事訴訟法を含め、ジェンダーに基づく暴力の被害者を保護するために設けられた法的枠組みに従い実施しました。

UNDP 地域安定化ファシリティによる能力構築ワークショップへの参加には、啓発的な意味がありました。特に刑法の遵守、手続き面の簡素化、安全管理の確保、過激主義と関連における行政上、司法上の秩序維持に焦点を絞ったことで、自分の仕事に役立つ貴重なスキルを身に着けることができました。

私にとって一番嬉しいのは、事件を解決できた時ですが、私たちが依然として抱え続けている課題について認識することも欠かせません。被害者やその家族は、声を上げるのをためらうことが多く、場合によっては、事件管理のプロセスを積極的に妨げることもあります。私は実際、捜査を取りやめるよう脅しを受けたことさえあります。



太陽光発電設備を
備えた庁舎や
学校、憲兵隊兵舎、
警察署など、
安定化ファシリティ
によるインフラ支援は、
私たちが
サービスを提供し、
コミュニティを
支援する能力を
著しく向上させました



アルビン・
ヌンビシ



カメルーン
極北州 マルア

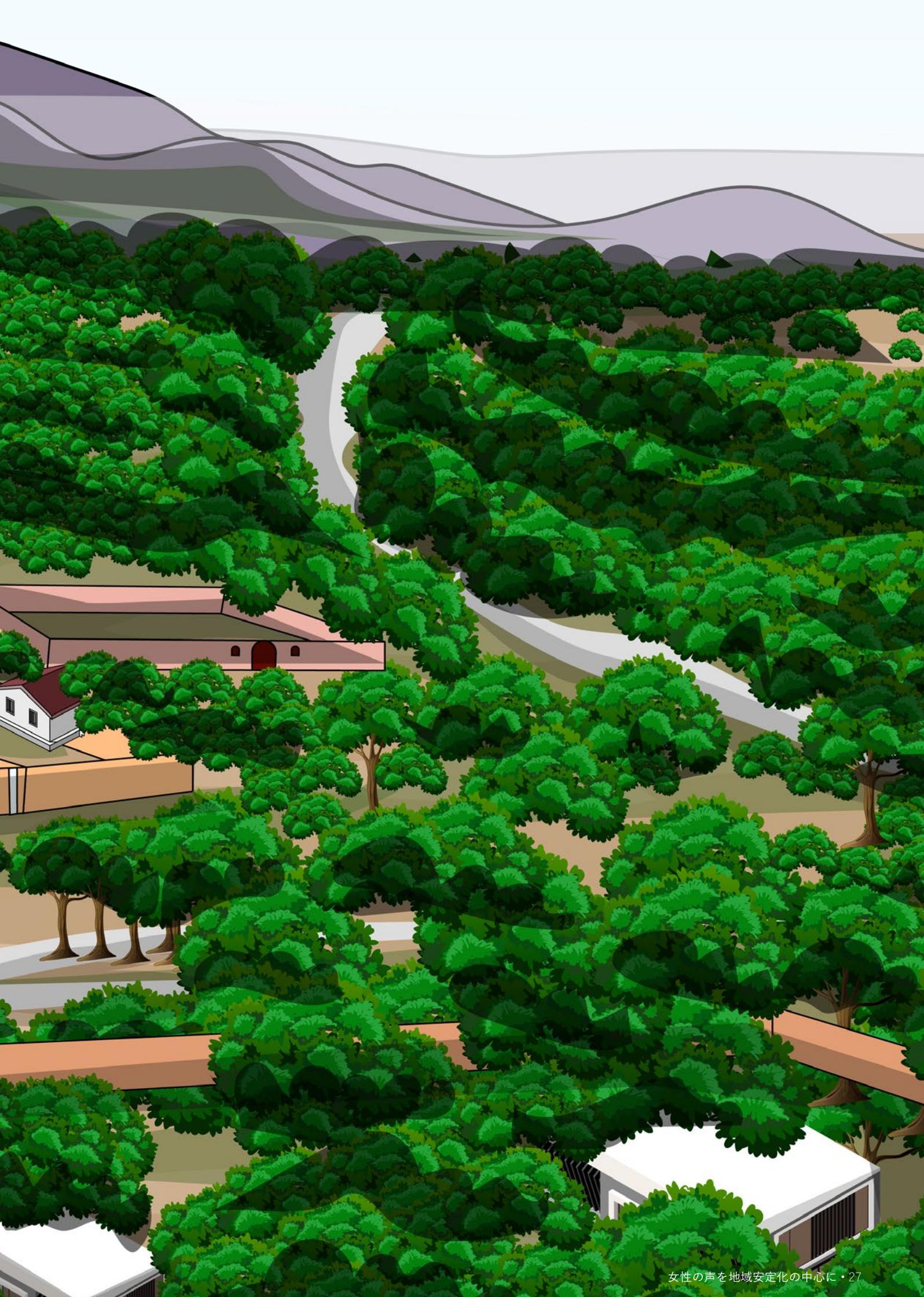


A4 上級レベル
(高校)



39 歳





シティー・ シセさん

セイテング女性団体 コミュニティ・コーディネーター補

私は5人の子どもを持つシングルマザーです。私たちはセイテングで平穏に暮らし、働いていましたが、2022年6月の襲撃事件で死者が出てからは、45キロ離れたドリの町に移住することを余儀なくされました。この困難な時期に仕事に就けなかったため、非常に厳しい生活を強いられました。

セイテングに警察と憲兵隊が戻ってきたのは幸いでした。やっとのことで比較的平穏な暮らしを取り戻したことで、安全・安心感が強まり、私と家族だけでなく、その他の避難民も故郷の町に帰還できるきっかけとなったからです。

戻ってきた私たちは、生活と生計を立て直さなければなりません。社会的弱者の女性と若者を支援する雇用創出・現金報酬プログラムは私のほか、町の女性308人にも裨益しました。私たちは公共インフラの復旧と劣化した土地の回復に努めました。作業が完了すると、携帯電話に賃金が全額、振り込まれました。

私は支払われた賃金で、ヒツジ1頭とヤギ2頭を買いました。今ではその選択が正しかったと思っています。ヒツジはまだ1頭ですが、ヤギは5頭に増えたからです。金銭面以外でも、コミュニティ再建の力になれていると感じています。私はそれによって、他の女性にもセイテングに戻るよう働きかけられるようになりました。

私は畜産品の売上で得た収入を元手に、セイテングの中央市場で3日に一度、ガレットを売る零細事業の経営もしています。これによる追加的な利益は、子どもたちの食費や学費、医療費など、家計の足しにしています。



今では、子どもたちのウェルビーイング
に必要なものも手に入るようになり、
大変満足しています。
また、コミュニティの中でも
社会的承認を受けていると感じます



シティー・
シセ



ブルキナファソ、
サヘル地方セイテンガ町



セイテンガ女性団体
ローカル・コーディネーター補



インフォーマル学校制度
フランス・アラブ学校



31 歳

雇用創出・現金報酬 プログラムとは

危機下での自立、 尊厳、希望の回復

雇用創出・現金報酬は、地域安定化と早期復興プログラムで幅広く用いられている手法です。危機の影響下で、特に女性や若年失業者など、社会的弱者世帯を対象に、とりあえずの生計支援を提供しています。参加者は小規模のコミュニティ・インフラ復旧、道路清掃、衛生関連サービスの提供など、労働集約的作

業に取り組むことが最も多くなっています。コミュニティ・インフラの復旧や主要サービスへのアクセス改善に加え、雇用創出・現金報酬プログラムは家計所得を改善し、地域経済に現金を注入し、被災コミュニティの購買力を強化します。





ブルキナファソでは、

1,500人

が雇用創出・現金報酬プログラムに参加することで、収入を得るとともに、自分自身と家族を養えるようになりました。



2023年には、経済関連の安定化活動参加者の

88%

が、暮らし向きが改善したと回答しています。



プランセス* さん

性暴力被害者の若年女性

2022年10月、私は地元の町に派遣されてきた兵士にレイプされました。夫が留守にしている際に私をレイプし、そして脅したのです。私は恐怖心から、口をつぐんでいました。

しかし、そこで妊娠が発覚したため、私は家族に言わざるを得なくなりました。家族の中には「人権と人間の尊厳尊重のためのアクション (ARDHU)」という団体と連絡を取った者もいました。

ARDHU のチームは私の事情を知ると、すぐに精神的な支援を申し出ました。私は心的外傷後状態にあり、まだ恐怖や敵意、抑うつを感じていると説明されました。私が感じていたスティグマや恥の意識よりもさらに最悪だったのは、夫が離婚を求め、家族からも拒

絶されたことでした。ARDHU は私に病院での治療を勧めました。そして子どもが生まれるまでの6か月間、そこで世話になりました。

私はやがて、自分自身を受け入れられるようになりました。子どもを育てながら、将来に目を向けています。今は叔父と別の町に住んでいます。ARDHU の支援のおかげで、家族関係も改善しています。

* 仮名

カメルーンの市民社会組織、人権と人間の尊厳尊重のためのアクション (ARDHU) について

ARDHU はカメルーンの非営利市民社会組織で、心理社会的支援と人権侵害事件のモニタリングを専門に取り扱っています。ARDHU が行っている主な活動としては、カメルーン極北州で起きた暴力や人権侵害の報告とモニタリング、市民社会組織のメンバーを対象とする人権活動家保護に関する研修の実施、心理社会的支援や子どもの保護、ジェンダーに基づく暴力に関連するテーマに関する啓発が挙げられます。男性、女性、女兒が活動の対象となっています。

さらに詳しい情報については、ARDHU の [Facebook](#) と [X](#) (旧 Twitter) のページをご覧ください。



プランセス*



カメルーン
極北州



中等学校
5年生まで



20歳

スルタン・ババ・ イブラヒムさん

マン女性レイマ連合会長

私の組織は設立以来、長く発展を遂げてきました。最初は156人の女性に支援を行っていましたが、今では地域安定化ファシリティの支援を受け、439人の女性の暮らしを変えています。

発足当初、女性はジェンダーに基づく暴力についても、女性器切除についても、ほとんど情報を得られていませんでした。私の組織「マン女性レイマ連合」は、女性器切除に終止符を打つという明確なスタンスを打ち出しまし

たが、私たちのメッセージはコミュニティにも歓迎されています。今では地域住民のほとんどが、女性器切除や早婚の悪影響について、理解できるようになりました。

私たちの社会では、女性がしばしば不平等な扱いを受けています。私たちには、自分の意見を表明したり、自分たちが不当な扱いを受けたときに、問題を裁判所に持ち込んだりできる余地がほとんどありません。司法にアクセスできないからです。

マン女性レイマ連合（チャド）について

チャド、ハジェルラミ州のマニ郡では、223人の女性が性暴力やジェンダーに基づく暴力と積極的に闘っています。また、安全な空間を提供し、当局に事件を報告し、不正に団結して対処しています。女性たちの断固とした取り組みは、その連帯と決意の証として、コミュニティに実質的なインパクトを及ぼしています。



女性に読み書きを
教えることも
優先課題です。

教育は
あらゆる開発の
基礎だからです



こうした課題に対処するため、性暴力やジェンダーに基づく暴力に関するワークショップや啓発キャンペーンが行われました。その結果、コミュニティでは女性に権利があるという理解が進みました。今では、はるかに多くの女性が私の味方になり、この活動を支援してくれています。

私の組織にとっては、今後3年から5年の間に、女性が物事への取り組み方を変えられるようにすることが、ひとつの優先課題となります。私は女性にもっと自立し、夫の許可なしでも、自分自身の決定（貸付やマイクロクレジットの申し込みなど）を下せるようになってほしいと思っています。



スルタン・ババ・
イブラヒム



チャド



マン女性レイマ連合会長、
ハジェルラミ州マニ郡長



中等学校
中退



57歳

アスマハン・アラワイシエーさん

UNDP ナイジェリア事務所上級土木
テクニカル・オフィサー兼工兵部隊長

私は女性技師として、プロジェクトに直接、女性の視点を取り入れています。例えば、私はジェンダー関連の課題を的確に予測できます。これは UNDP の活動にとって、極めて大きな意味があります。女性と子どものエンパワーメントやウェルビーイングに直接、影響を及ぼすプロジェクトに携わっているからです。

私は長年の間に、アフリカやアジア、アラブ諸国の各地で多くの文化を目にしてきました。私はいろいろな女性たちと共感するだけでなく、仕事の上でも、自分たちのプロジェクトで女性の関心事にしっかりと取り組めるようにしています。人口の半分を占める女性を、安定化の蚊帳の外に置くことなどできないからです。

紛争や情勢不安が生じたとき、女性と子どもはジェンダーに基づく暴力を受けやすくなるばかりか、反政府グループの標的とされることも多くなります。しかも、紛争は女性の世

帯主を増やします。よって、こうしたコミュニティに復興への道を歩ませるためには、女性のリーダーシップが必要です。教育面、文化面、経済面での女性のエンパワーメントは、社会に指数関数的な好影響をもたらします。女性の積極的な参加なくして、持続可能な安定化はありません。

女性はプロジェクトに創造性と独自の視点を持ち込みます。男性中心の職場であっても、女性の参加を制止すべきではないのです。

私は長い間、ヨルダン警察庁で初の、そして唯一の女性テクニカル・オフィサーでした。そして、中佐の地位にまで昇り詰めました。私はまた、スーダンの国連平和維持ミッションで警察顧問を務める初の女性テクニカル・オフィサーにもなりました。課題は山積していたものの、私は部署のリーダーを務め、包摂的なリーダーシップを発揮することにより、男性主体の治安セクターで実績を残すことができました。



選んだ仕事にジェンダー・バイアスがあったとしても、ひるむことなく夢を持ち続け、追い求めること。それが私の女の子たちに対するアドバイスです



アスマハン・アラワイシェー



出身国：ヨルダン
現在はナイジェリアの
マイドゥグリに勤務



UNDP ナイジェリア事務所
上級土木テクニカル・
オフィサー兼工兵部隊長



土木工学/
水と環境修士号



57歳

ジェンダー対応型の建設を確保するためのステップ

アスマハン・アラワイシェー UNDP ナイジェリア事務所主任テクニカル・オフィサー

アスマハンさんがジェンダー対応型の建設に活用する手法は、はっきりとした段階を踏む戦略的プロセスに従っています。

1.

コミュニティを巻きこみ、ニーズを把握

プロセスは、女性やコミュニティ・リーダー、現地コミュニティの安定委員会の見解を積極的に求める突っ込んだコミュニティ・エンゲージメント・セッションで始まります。これによって、コミュニティのビジョンと密接に整合するプロジェクトの基盤ができます。

2.

設計と計画に文化的配慮を

ナガラナムの住宅は、文化的な配慮を念頭にきめ細かく設計されています。例えば、女性と男性の活動空間を隔てたり、日陰のベランダなど、女性のウェルビーイングを向上させる要素を取り入れたりしています。

3.

透明度の高いコミュニケーションと可視化

説明会では、建築計画と費用概算を当局や地域住民とオープンに話し合います。3Dの完成図を共有し、当事者意識も育てます。

4.

建設の一環として、女性の雇用を促進

アスマハンさんとそのチームは、公共工事の請負で現地女性の雇用を求めています。これは建設活動への女性の参加を増やし、経済的なエンパワーメントを促進し、ジェンダーの障壁を崩すことにも役立っています。

5.

ジェンダーに配慮した資源の分配

住宅を分配する際には、女性の世帯主を優先することにより、ジェンダーの格差に取り組むとともに、資源への平等なアクセスを促進します。

ナイジェリア北部のナガラナムで実施された包摂的建設



市場の16か所に鍵のかかる店舗、382か所にジェンダー配慮型の露店を整備し、コミュニティ全体に裨益しました。



2022年に設立されたナガラナム小学校には現在、500人の生徒がいますが、そのうち女子生徒は283人に上ります。



ナガラナムには、寝室2部屋の家屋が30棟、建設されましたが、うち63棟は女性に割り当てられ、裨益人口は延べ2,250人程度に達しています。

ハウア・ムサ・シセさん

セイテングで働く技師

私は小学生の子どもの頃から、インフラの計画と整備に興味を持っていました。父方の叔父について行って、土木プロジェクトの現場を見せてもらったこともあります。バカロレア D 系列を取得した私は、工科大学で土木工学を学びました。

2022 年 2 月、私はブルキナファソのサヘル地域で安定化に向けた取り組みを行うため、セイテングでフィールドエンジニアを務めるという困難ながら、やりがいのある任務に就きました。男性が圧倒的に多い現場での女性監督者ということで、当初は独特の課題に直面しました。私はセイテング産科病棟や公衆便所、井戸など、必須の社会インフラの復旧や建設を含め、インフラ全般の整備を監督しました。これらのプロジェクトには、住民の基本的ニーズに取り組むための雇用創出・現金報酬プログラムを通じ、300 人の女性を含む 500 人の地域住民も参画しました。

私が直面した最大の課題は結局、治安の悪さでした。それを象徴する出来事が 2023 年 4 月に起きました。ドリからセイテングへの移動中、私は武装した正体不明の男性 8 人が設けた「検問所」に呼び止められました。そし

て、私の意図や素性に関し、矢継ぎ早に質問を受けました。私は揺るがぬ決意で、その一つひとつにはっきりと答えました。そして結局、通過の許可をもらいました。最初は恐怖がありましたが、私はひるまずにセイテングへと赴き、その日の仕事を無事に終えました。

治安の課題を克服するには、戦略的な手段が必要です。私は現地の人間ではあったものの、この状況からセイテングの女性と同じようなベールや靴下を着用し、変装することを余儀なくされました。この変装によって、人ごみに紛れ込み、悪目立ちしないようにすることで、要らぬ関心を引き、武装集団に狙われるおそれを回避できたのです。

私は今、安定化プロジェクトで役割を果たすことで、自分自身のコミュニティを支援しながら、自分の関心ある分野で生計を立て、しかも女性が提供できる新鮮な視点で、これまで男性が支配してきた部門の多様化に貢献しています。課題はなくならないかもしれませんが、それでも 1 日ごとに、私はそれを克服する新しい方法を見つけ、コミュニティとその住民が引き続き、安定化への取り組みから利益を得られるようにしています。



この不可欠な役割が続く中で、
私のこれまでの足跡は、レジリエンスと適応性、
そしてセイテングにプラスのインパクトを
及ぼす強い決意を実証してくれています



ハウア・ムサ・シセ



ブルキナファソ、
サヘル地域セイテング



UNDP 地域安定化
ファシリティ駐セイテング技師



土木工学学士



24 歳

サリマタ・ タラタさん

セイテング産科病院助産師

私はブルキナファソのセイテング産科病院で助産師をしています。

太陽光発電設備が導入されるまでは、定期的に停電に見舞われ、それが勤務を非常に困難にしていました。1日の通電時間が平均で3時間だったこともあります。分娩中の女性に対する暑さの影響は特に大きく、しかも暗闇の中で適切なケアを提供することはさらに困難でした。夜勤の時は、ソーラーランプや携帯電話の光で診察や分娩を行わねばなりません。

太陽光発電設備が導入されてからは、出産前の診察や分娩の件数が目に見えて増えました。しかも、太

陽光発電設備の新設で扇風機や照明も使えるようになったため、仕事の効率も大幅に改善しました。今では24時間、電力が使えるので、これまでは不可能だった途切れないケアを確保できています。

太陽光発電設備の導入に課題がなかったわけではありません。設置は2022年9月でしたが、当時は80人の死者と1万6,000人の避難民を出した2022年6月11日のテロ攻撃により、町が半ば空っぽになり、脆弱化していました。しかも、技術者が到着したとき、医療従事者がその場にはおらず、ただ1人そこにいた助産業務管理委員会の議長が技術者を案内し、設置に必要な機材の確保を支援しました。



太陽光発電設備は、産科病棟のほか、医療センターの業務全般の機能も改善しました。患者や家族、医療センター職員は携帯電話や懐中電灯、さらにはパソコンも問題なく充電できるようになっています。

今のところ、太陽エネルギーの活用を地域の他の公共サービスや施設に拡大する計画はないものの、産科病棟の助産師と管理職員は地方当局と安定化プログラムに対し、太陽光発電設備を産科病棟から治療室にも拡大するよう、積極的な働きかけを行っているところです。

「
コミュニティの
女性たちは、
太陽光発電設備の
設置を喜んでいます。
出産前の
診察や分娩に
来る女性の
生活の苦勞を
大幅に改善
したからです



サリマタ・
タラタ



ブルキナファソ、
セイテンガ



セイテンガ産科病院
ボランティア助産師



助産師資格



29歳

ラマトウ・アリさん

ガランドゴ診療所看護師（ニジェール）

私は3人の子どもの持つ看護師です。2015年から2017年まで、ディファの母子病院に配属されていましたが、その後2018年から2021年までは、同じくディファの看護センターに務め、そこからガランドゴ診療所にやって来ました。

2015年から、私は数限りない悲劇を目の当たりにしてきました。武装集団による攻撃でトラウマを抱えた女性や子どもがいたり、乳児の栄養不良や早産のケースもあつたりしました。避難民となった妊婦は、移動や生活条件の悪さが祟って、合併症にかかることが多くありました。難民や国内避難民がディファに流入した結果、仕事量は膨大になり、勤務時間は朝8時から夜8時まで続

くこともよくありました。2021年9月、避難民がそれぞれの村に戻ったことから、私はガランドゴの診療所に配置替えとなりましたが、同僚の中には、緊迫した状況にあるこの地で働くことをためらう向きも多くありました。しかし最終的に、治安部隊の存在が静寂をもたらしました。

地域安定化ファシリティのおかげで、ガランドゴ診療所は包括的に修復され、救急車1台と薬剤も調達されました。今では地域の患者を診察し、合併症がある場合にはディファに移送できるようにもなりました。毎日30人から40人の患者が治療を受けています。





地域安定化ファシリティの介入があるまで、診療所は治安の悪化から2年以上も閉鎖されていました。今は通常業務を回復し、救急車も夜間を含め、いつでも出動できるようになっています。また、Action Contre la Faim、Agence Pour le Bien-Etre、Cooperazione Internazionale、Help、International Development and Early Learning Assessment、セーブ・ザ・チルドレン、UNICEFなどの非政府組織や機関からの支援も引き続き受けています。

照明が設置されたことで、夜勤スタッフに安心感も生まれました。

経済・社会活動の再開で、ガランドゴの暮らしはほぼ平常に戻りました。医療をさらに向上させるため、私は井戸の改修による水の自給を望んでいます。着実に増える診察件数に対応するためには、医療従事者の研修の充実とチームの強化も必要です。

ガランドゴ診療所は、
乳児死亡率を
改善し、より安全な
出産を確保する
ことにより、
住民の健康を
増進しています



ラマトゥ・アリ



ニジェール、
ディファ州



ガランドゴ診療所
看護師



3年の就学で学士号取得



37歳

ガンド・ヤイゲレ・ テンベリーさん

マリ CAFO（女性団体・NGO 調整機関）
バンジアガラ事務局長

リプタコ・グルマ地域安定化ファシリティのおかげで、女性と少女が1世代のうちに社会的、文化的なジェンダー規範を変えることに成功しました。そして、自分たちの能力に自信と確信を持ち、より大胆な起業家にもなっています。その多くは、バンジアガラでの地域安定化ファシリティーの活動の賜物です。また、コミュニティが女性の起業に対して寛容になっていること、そして、契約入札の時にも、女性の組織がより多く検討されていることも明らかになっています。

UNDP ジェンダー・シールは、こうした組織に対する信頼感を高めました。女性と少女は、この変革達成に欠かせない存在となりました。社会的・文化的障壁があるにもかかわらず、変化をもたらす主体として、社会経済開発に参加するというその意志と決意には、目を見張るものがありました。UNDP の支援による能力構築イニシアティブの実施後、参加女性は交渉や平和構築のテクニック、プロジェクト開発、アドボカシーとロビー活動、所得創出活動に向けた経理のスキルを身に着けました。

私が特に誇らしく思うのは、女性団体がその石鹼生産量を増やした結果、石鹼の価格が400CFA フランから300CFA フランに低下したことです。女性が家庭でする仕事の多くで石鹼が使われることを考えると、その本質的重要性が分かります。

女性が自分の企業を成長させ、例えば石鹼の持続可能な生産をさらに増大させるための現代的な生産・処理ユニットを調達するうえで、このことは欠かせません。

加えて、バンジアガラの女性センター建設は、ジェンダーに基づく暴力の被害者に安全なケアを提供し、コミュニティへの社会経済的な復帰を支援するうえで不可欠となります。女性センターには、市場の拡大と女性による起業の価値向上を目指して、部門横断的なクロスボーダー（マリ、ブルキナ、ニジェール間）の相互学習のための空間を設けることもできるでしょう。そのためには、より多くの女性が地方、州、国政レベルの選挙に当選し、目標達成のために必要な支援を受けられるようにしなければなりません。

マリ女性団体・NGO 調整機関（CAFO）について

CAFO はマリ最大の非政府組織（NGO）のひとつとして、全国的、国際的な活動を展開しています。女性団体と NGO の結束を目指す CAFO は、女性と子どもの権利推進、持続可能な開発の促進、グッド・ガバナンスの要求を重点目標としています。CAFO は調整の強化に向けて、5年ごとに全国総会を開催し、マリ全国20州でのリーダーシップと活動の刷新を図っています。



私には、近い将来に向けた
大きな夢があります。
それは、女性団体が簡単に貸付を
受けられるようにすることです



ガンド・ヤイゲレ・
テンベリー



マリ、モプティ州
バンジアガラ



CAFO
(女性団体・NGO 調整機関)
事務局長



プロジェクト/
プログラム管理学
第2種修士号



55歳

マルグリット・ ジェレミー・バツザイさん

モゾゴの仕立職人

私の名前はマルグリット。19歳で、カメルーンで仕立職人をしています。7人の兄弟・姉妹のうち3番目の子どもで、母と暮らしています。残念ながら、父は他界しました。紛争で家計収入が途絶えるまで、家族の暮らし向きは良いほうでした。

ボコ・ハラムによる攻撃が常態化すると、ナイジェリアとの国境付近にあった農地を手放さざるを得なくなりました。自宅周辺にも小さな畑がありましたが、収量は不安定でした。私は紛争によって退学を余儀なくされ、将来への希望をなくしました。

私は兄弟姉妹の世話をするために家に残りましたが、まともな食事はほとんどできませんでした。殺されるかもしれないと思ったので、怖くて畑には出られませんでした。家族にとって本当につらい時期で、今でもどうやって生き抜いたのか、よく説明できません。

地域安定化ファシリティの支援を受けて、政府の職業訓練センターが復活すると、私は幸運にも、訓練生の1人に選ばれました。そして、仕立職人として卒業した私は、機材の提供を受けました。



今では、私自身のニーズを満たし、家計を助けられるだけの利益が出るようになりました。兄弟姉妹たちの学費や、毎日の食費を賄えるようになったことに満足を感じています。

紛争が起きるまで、私の家族の暮らし向きが良かったのは、畑仕事で自分たちのニーズを満たせていたからです。退学を余儀なくされてからも、私は他の子どもたちと同じように、読み書きを学び続けたいと思っていました。いつの日か偉大な女性になりたいと夢見ていました。

私が縫製の訓練を選んだのは、多くの女性がこの仕事をしてきたからですが、私にとって簡単に学べたという理由もあります。いろいろなモデルを作って、最終的に製品になっていく過程を見ることに喜びを感じました。私の収入で、兄弟姉妹の学費や医療費、住宅費も賄えるようになりました。今までよりもはるかに状況は改善しています。

若者の失業と闘うためには、他の人にも訓練を施すことが重要です。そうすれば、私たちの村が成長し、さらに多くの就職機会が作り出せるようになります。徐々に治安が回復する中で、私は今後も状況は改善すると信じています。そして、さらに明るい未来を期待しています。

「

私はきっと、有名な
デザイナーになり、
他の弱者層の少女たち
にも訓練を施せるように
なると思っています

」



マルグリット・
ジェレミー・バッザイ



カメルーン
極北州モゾゴ



職業訓練校卒業



19歳





ヤガナ・ イブラヒムさん

バンキ安定化委員会メンバー

ナイジェリアのボルノ州バマ地方行政区のバンキ出身の4人の子を持つ母親である私は、コミュニティの決定に大きな発言力を持つことを想像もしていませんでした。私たちのコミュニティは2009年以来、国内の北東部で激化している紛争による深刻な影響を受けています。私は多くを失いましたが、中でもつらかったことは愛する妹の死でした。

時間が経つにつれ、私個人にも、コミュニティにも変化が訪れました。人道面と開発面の取り組みによる効果的な支援のおかげで、バンキは徐々に復興し、通常の日常生活に戻りつつあります。私たちのコミュニティの復興では、コミュニティ・リーダーや治安警察官、宗教指導者、ステークホルダー、そして業者組合や文民合同タスクフォースを含むその他の団体の代表からなる地域安定化委員会の創設が鍵を握る要素となりました。

私は、女性と少女の権利を守るという情熱に衝き動かされ、バンキ安定化委員会の活発なメンバーとなりました。私にとってそれは、大きな転換点となりました。コミュニティの

女性が抱える具体的な課題についてオープンに話し合い、その改善に向けて実行可能な解決策を提案する機会を得たからです。

安定化委員会が結成されるまで、私たちは女性としての懸念を表明することができませんでした。軍やその他の治安部隊に問題を報告する気になれなかったからです。私たちは治安当局を信用しておらず、声を上げたことによってどんな結末になりかねないか、恐れていました。私たちは何年もの間、こうした困難に黙って耐えていたのです。

しかし、安定化委員会ができ上がると、コミュニティの女性は大人も子どもも、新たな自己決定権を得たように感じました。委員会はそれまで軽視されていた女性の課題について、優先的に取り組んでいるからです。

私たちは今、バンキを再建し、かつての愛すべき故郷を取り戻すため、力を合わせているところです。

F

私たちは、自分たちの懸念を口に出すだけでなく、コミュニティの他の住民にも、適切なアクションを起こし、問題に取り組むための解決策を見つけるよう、働きかけられるようになりました

J



ヤガナ・
イブラヒム



ナイジェリア、
バンキ



バンキ安定化
委員会メンバー

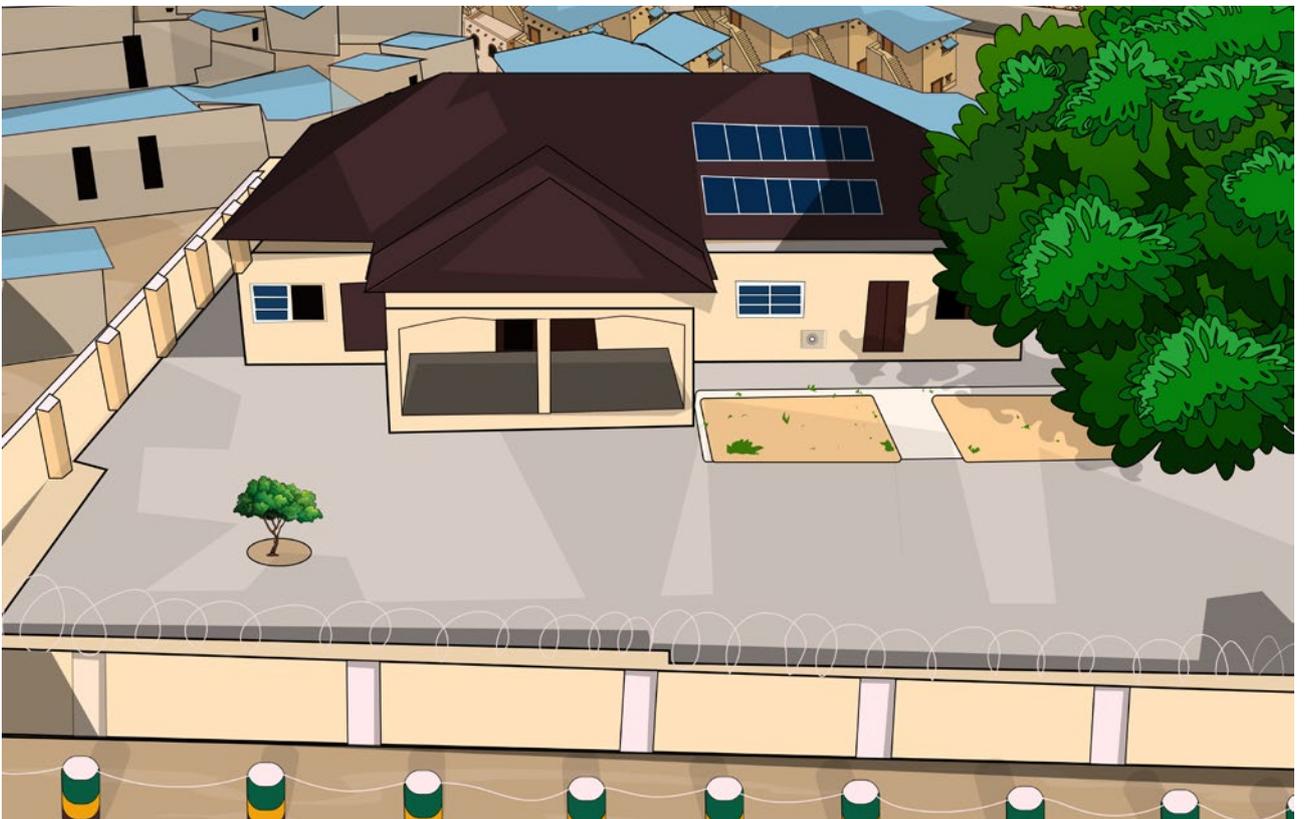


就学経験なし

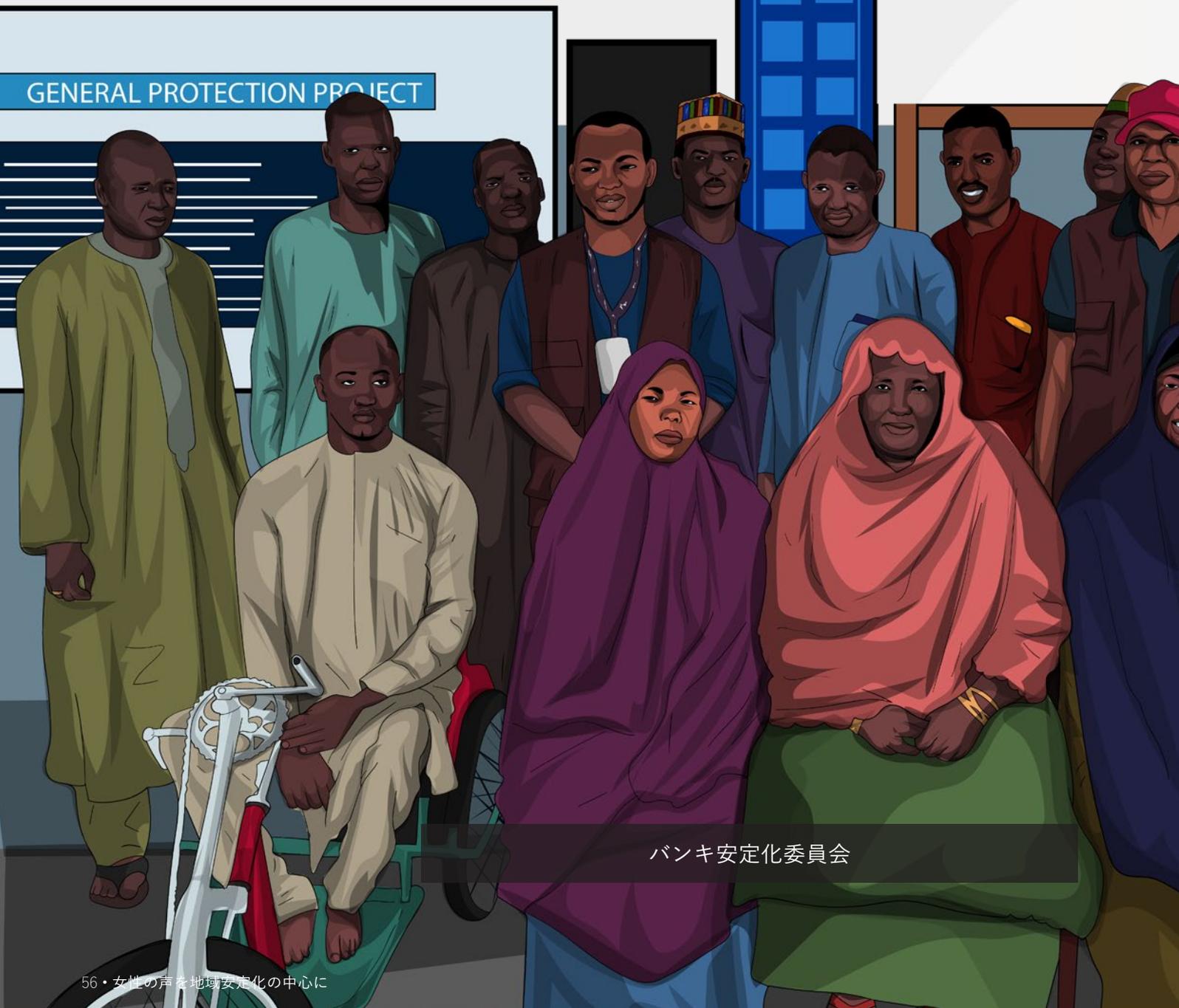


32歳





コミュニティ安定化 委員会



バンキ安定化委員会



安定化プログラムの指定地域（「共同行動計画拠点」）の多くで設立され、活動している安定化委員会は、年齢やジェンダーこそ異なるものの、コミュニティのガバナンス、警備計画の策定、人権状況のモニタリング、経済・社会開発への市民の参画を積極的に促進する個人で構成されています。プログラムによる施策でコミュニティのあらゆる集団の懸念が考慮されるようにすることが、委員会の重要な役割です。また、地域の課題に取り組むための提案を作成したり、コミュニティ施設の監督に参加したり、行政当局との連絡役を務めたり、地域行動計画の策定へのコミュニティの参画を促したりするうえでも、欠かせない役割を果たします。

より多くの女性が安定化委員会の活発なメンバーになれるようにすることは、UNDP が女性のリーダーシップを広げるために用いている手段の一つです。これら委員会は、地域住民全体を代表することにより、安定化施策の策定と実施双方へのコミュニティの本格的関与を促進しています。

ハジア・ハウア・ マイナ・マドウさん

ボツソの農牧民兼起業家 (ニジェール)

私は2児の母で、一時は紛争を逃れるために離れたボツソに戻り、暮らしています。ボツソはディファ州のナイジェリア国境付近にある町です。ポコ・ハラムの攻撃で夫を亡くしたため、今は未亡人です。2014年にナイジェリアのボルノ州で発生した安全保障の危機により、そこに住んでいた私の両親はすべてを失い、ポコ・ハラムの攻撃を避けるためにニジェールのボツソに逃れました。しかし、ボツソも攻撃に遭うと、町からは住民がいなくなり、軍とポコ・ハラム戦闘員との戦いの場になりました。そこで私たちも一時的にイエビに避難を強いられ、そこからボツソに戻ってきたのです。

2か月にわたるイエビでの不安定な生活は困難を極めました。ボツソの全町民に当たる1万4,000人と、ナイジェリアからの難民8,000人、そして2,000人の地域住民がたった1つの古井戸に水を依存していたからです。きれいな水を得ることは常に難しく、女性は家事の責任を一手に背負わねばならなかったほか、中には暴力を受けたり、食費を稼ぐために売春をする人もいました。この過酷な状況で、数千人がホームレスとなりました。2015年4月9日、私たちはチャド軍の支援を受けてボツソに戻り、安定化施策の恩恵を受けることになったのです。

母と私は農業関連の支援を受け、私は香の製造と伝統的化粧品の加工を行う零細事業を立ち上げました。香の製造では2人の女の子、農産事業では4人の男の子を雇い、今では1か月で約30万CFAフランの利益を上げていますが、それが私のエンパワーメントと家族のニーズ充足に貢献しました。ボツソは大きな変化の真ただ中です。コミュニティでは結婚式の数が多くなり、文化やスポーツの活動も再開しました。安定化への取り組みのおかげで、私も娘と妹の結婚式を開くことができました。しかも、所得が増えたことで、2人の花嫁の家財道具も買うことができたのは、私にとって大きな誇りでした。

長い間、学校に行けなかった子どもたちも、ボツソに帰った今はすべて学校に戻りました。特に分娩のための医療へのアクセスも、大幅に改善しています。町全体がソーラー街路灯で照らされるようになり、治安の改善に大きく貢献しています。

私は、女性グループが団体運営や協同組合経営の訓練を受けることも期待しています。

「

私の願いは、女性たちが私と同じように、農産食品加工や起業において、裁縫、編み物、またはお香作りの技術を身につけることを支援されることです。それは私が経験したことと同じです。

」



ハジア・ハウア・
マイナ・マドゥ



ニジェール、
ボツ



クルアーン幼稚園



38 歳

私たちのパートナー

安定化プログラムの策定や、女性と少女、そのコミュニティの暮らしの改善は、私たちのパートナーからの貴重な資金供与によって可能となりました。

チャド湖流域地域安定化ファシリティのパートナー



チャド湖流域
委員会



カメルーン



チャド



ニジェール



ナイジェリア



アフリカ開発銀行

AFRICAN DEVELOPMENT BANK GROUP
GROUPE DE LA BANQUE AFRICAINE
DE DEVELOPPEMENT



デンマーク



Funded by
the European Union

欧州連合



フランス



ドイツ



日本



オランダ



ノルウェー



スウェーデン



英国



UNDP



UNFPA



UN ウィメン

リプタコ・グルマ地域安定化ファシリティのパートナー



リプタコ・グルマ
機関



ブルキナファソ



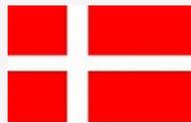
マリ



ニジェール



チェコ共和国



デンマーク



Funded by
the European Union

欧州連合



ドイツ



日本



オランダ



UNDP

H.E ハワ・ アウさん

リプタコ・グルマ地域統合開発機関
事務局長

残念なことに、危機が襲ったときに最初に犠牲になるのはいつも女性です。女性は治安の悪化や情勢不安、暴力的テロリズム、気候変動、ジェンダーに基づく暴力、資源への不平等なアクセス、非識字、医療や社会サービスへのアクセス欠如、政策決定プロセスでの不在のほか、さらに多くの点で不当に大きな被害を受けています。

こうしたあらゆる危機の影響にもかかわらず、リプタコ・グルマ地域の女性は平和の促進や和解、紛争予防、家族やコミュニティの食料安全保障の確保に欠かせない役割を果たし続けています。女性は調停者としても、コミュニティ・リーダーや当局者と並んで活躍しています。女性のレジリエンスこそが、家族と社会の絆を維持しているのです。

こうした事情から、私たちはリプタコ・グルマ地域向けに策定した地域安定化戦略で、女性の経済的、社会的、政治的エンパワーメント、そして何よりも、あらゆるレベルの政策決定プロセスへの参加を通じ、女性を私たちの活動の中心に据える包摂的手法を採用しています。

必要な空間と手段を与えることにより、女性が平和の定着と、私たちの地域の持続可能な開発に向けた社会的一体性の強化で先頭に立てることを、私はこれまで以上に確信しています。

私はこの機会を捉え、あらゆる人々に対し、これら勇敢な女性たちがリプタコ・グルマ地域を恒久的な平和と繁栄の地とできるよう、私たちに力を貸していただくことをお願いしたいと思います。



リプタコ・グルマ
地域の安定化

女性 = 人口の 50% 超
私たちが
持っているのは
単なる数字ではなく、
解決策！



ウラ・ アンドレンさん

スウェーデン国際開発協力庁（SIDA）
在エチオピア・スウェーデン大使館
元アフリカ地域開発協力責任者

紛争解決とレジリエンス、そして和平プロセスへの女性の積極的参加は、コミュニティ全体のウェルビーイングに欠かせません。これは女性が従来、地域社会に残って、育児や高齢者の介護、家畜の世話などをせざるを得ないことが多いからです。その結果、人口の半数を占める女性は、紛争地帯でさえ、住民の大半の福祉を担うこととなります。これらの女性の視点や経験、ニーズは重要であり、平和で包摂的な社会を育てるうえで、その声は欠かせません。

コミュニティから地方、国、地域、そして国際レベルに至るまで、あらゆるレベルで女性の声を聞かねばなりません。自分たちの暮らしに影響する決定に平等に参加できるようにすべきです。女性が和平プロセスを主導できるよう、エンパワメントを図ることが重要です。構造的なジェンダー問題のために、女性が最前線に立ってないことも多いからです。



スウェーデンは平和の実現に尽力しています。ただし、その平和とは、戦争がないことではなく、民主主義や人権の尊重、法の支配、そしてジェンダーの平等を意味します。それこそが、グッド・ガバナンスと持続可能な平和の礎だからです。



私たちは
政治的にも、
そして
開発協力事業を
通じて、
包摂的な
和平プロセスと
開発に向けた
地域的
イニシアティブを
支援しています

結語：

ブレルタ・セラさん

UNDP 西・中央アフリカ地域センター
地域安定化ファシリティ・ダイレクター

まずは、皆さんも本書でご紹介したストーリーを、私と同じだけの熱意と情熱を持ってお読みになられたことと思います。これらのストーリーは、脆弱な危機的状況下で生き抜く女性と少女のレジリエンスを証明しています。

チャド湖流域地域のあるプログラム拠点を訪問した私は、そこでお会いした女性たちの強い決意に感銘を受けました。彼女たちのストーリーと、暴力や損失、そして数多くのトラウマと日常的に闘っている姿は、私に母国アルバニアのことを思い起こさせました。私自身、日常的なジェンダーに基づく暴力や不平等、そしてコンボの難民キャンプの女性と子どもに戦争が及ぼした恐ろしい影響を目の当たりにしてきたことから、その恐怖や悲しみ、苦闘には共感を覚えました。この冊子でご紹介した女性と同じく、誰もが信じがたいほど勇敢で、恒久的な平和と安定を異口同音に求めていました。

チャドでは、UNDP の地域安定化ファシリティが、コミュニティ安定化委員会への女性の参加と、そのリーダーシップを確保していることが確認できました。特に私の関心を引いたギテの女性多機能プラットフォームでは、女性に安全な空間を提供するだけでなく、コミュニティの意思決定や経済活動への積極的参加も可能にしていました。

こうしたストーリーは、私たちの安定化への取り組みが女性の顔をしていることを示しています。どの場所でも、女性は平和と安定を先頭に立って推進しています。女性がその潜在能力を十分に発揮できるようエンパワーメントを図るには、そのリーダーとしての独自の資質を支援し、女性のために、そして女性とともにより多くの機会を作り出すことで、コミュニティへの奉仕と指導を続けられるようにすべく、はるかに多くの取り組みが必要となります。女性がリーダーシップを取れば、コミュニティは栄えるからです。

私は、女性のエンパワーメントとジェンダーの平等という目標の達成に対する強い決意を持ったパートナーと連携でき、非常に幸運だと思います。これまでに私たちが前進を果たせてこられたのは、私たちが共有するコアな価値観のおかげだといっても過言ではないでしょう。

皆さんがこれらのストーリーから私と同じような感動と感銘を受けたのであれば、ぜひお子さんにも読み聞かせてあげてください。そしてご家族や友人とも共有し、仕事仲間とも話し合ってみてください。私たちが力を合わせれば、一つずつのアクションで一人ずつ、そして一つずつの変化を通じて、引き返すことのできないプラスの変革の波に貢献し、将来の世代にも着想を与える機会が生まれるのです。



この冊子に
登場した女性と少女、
そして地域安定化への
取り組みの
中心にいる方々を、
私は心から
賞賛します。
家父長制に挑み、
ジェンダー規範を
変えてゆこうとする
その決意は、
あらゆる人の
励みとなるはずです



さらに詳しい情報については、下記にお問い合わせください。

Ms. Blerta Cela
Director of the Regional Stabilization Facility
blerta.cela@undp.org



女性の声を 地域安定化の中心に

チャド湖流域とリプタコ・グルマ地域で
安定化への取り組みの先頭に立つ女性たちのストーリー



United Nations Development Programme
Sub-Regional Hub for West and Central Africa Point E,
Complexe Citamil, Immeuble E
Dakar - Senegal



United Nations Development Programme
国連開発計画 (UNDP)
www.undp.org/japan
© UNDP 2024



高級ハルブ配合率70%再生紙を使用



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。